

■養成所ニュースプラス第 33 号 2025□■

デフリンピック東京大会は、本日の閉会式で幕を閉じます。新しい応援のサインとしての「サインエール」が話題になったり、手話が出身国によって異なることにも気付く機会になりました。

「手話」は「障害者権利条約」や障害者基本法に「言語」であることが定められています。音声言語とは異なり、「手話」は独特の文法をもち、手指の動きとともに表情や動きの速さ、動きの大きさ等で表現されます。

Plus Quiz は「ソーシャルワークの理論と方法」から「ソーシャルワークのアプローチ」に関する問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるのかも、あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【31 回問題 103】 ソーシャルワークのアプローチに関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

1. 解決志向アプローチは、クライアントが抱く解決のイメージを尊重し、その実現に向けてクライアントの社会的機能を高めることを目指す。
2. 行動変容アプローチは、クライアントが、置かれている否定的な抑圧状況を認識し、自らの能力に気付き、その能力を高め、問題に対処することを目指す。
3. エンパワメントアプローチは、行動を学習の結果として捉え、正しく学習することにより問題行動を消去することを目指す。
4. フェミニストアプローチは、クライアント自らが問題を解決するための課題を設定し、あらかじめ決められた期間の中で課題を達成することを目指す。
5. 課題中心アプローチは、クライアントが自らの人生のストーリーを理解し、新たなストーリーに書き換えていくことを目指す。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

・(36 期生) 修了に関する書類は、10 月 31 日(金)にレターパックライトにて発送しています。届きましたら必ず確認し、もし書類の不足等がありましたらご連絡ください。また、書類が届かない場合にはご連絡ください。

住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。

・(37 期生) 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ

支給申請書類一式は、11 月 4 日(火)に普通郵便にて発送しています。届きましたら内容を確認し、11 月中にご自身でハローワークに申請してください。印字内容が間違っている、ハローワークで受理されない等ありましたら早急にご連絡ください。

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

・受講の手引の表紙裏(表紙の次のページ)に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

・第 38 回国家試験は、令和 8 年 2 月 1 日(日)です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618778&c=3246&d=99c7>

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618779&c=3246&d=99c7>

※申し込み受付期間は終了しています。

・本養成所では、受験対策講座の一環として「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」を web にて公開しています。

また、新たに保護観察官による「更生保護出張講座」を公開しました。

アクセスするための URL やパスワード等のお知らせは、養成所ニュースプラス第 6 号配信時に PDF データを添付しておりますので、確認のうえぜひ受講してください。

URL はこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618780&c=3246&d=99c7>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618781&c=3246&d=99c7>

・本養成所では、皆さんの後輩にあたる第 38 期生の出願を受け付けております。

現在、1 期募集を受付中です。皆さんの周りで社会福祉士取得を目指している方、関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非とも本養成所をご紹介しますようお願いいたします。

出願手続き等についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618782&c=3246&d=99c7>

資料請求についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618783&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1618784&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

年末まで休載します。

【Plus Quiz 正答と解説】

「ソーシャルワークの理論と方法」は、ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術が幅広く問われてきました。37 回では 9 問が出題され、そのうち 6 問が事例問題でした。基本的な知識や技術の理解が事例問題で問われます。知識を想起するだけでは解けない問題もあるので、多くの事例問題を繰り返し、問われ方を理解していくことが必要です。

出題基準の大項目「ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ」「ソーシャルワークの過程」からは毎年複数の問題が出題され、「集団を活用した支援」「スーパービジョンとコンサルテーション」も頻出です。

今回の問題も大項目「ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ」からの出題です。この項目では、37 回問題 71 の問題解決アプローチのようにアプローチを提示し正しい説明を選ぶ問題と、今回のように各アプローチの説明から正しいものを選ぶ問題、37 回問題 72 のように事例を読み込み提示されているアプローチから適切なものを選ぶ問題があります。人名やアプローチの概要、その特徴等が問われます。

今回の出題では、選択肢 2 と選択肢 3 の行動変容アプローチとエンパワメントアプローチが入れ替わり、選択肢 4 は選択肢 5 の課題中心アプローチの説明でした。勉強したはずのアプローチを思い出せなくても、慌てることはありません。部分的でも確実な知識から選択肢を消去することで、正解に近づくことができます。

1. ○解決志向アプローチは、バーグやシェザーらが提唱しました。クライアントが「問題が解決された未来像」をイメージし、そこに近づくためにスモールステップを踏んでいく短期療法です。変化を阻害する否定的なメッセージをなくするようなコンプリメント（励まし、褒めること）や、ミラクル・クエスチョン、スケーリング・クエスチョンのような質問技法が特徴です。

2. ×選択肢はエンパワメントアプローチの説明です。行動変容アプローチは、トーマスやバンデューラらが提唱しました。ソーシャルワーカーがクライアントに、意図的に刺激や報酬をもたらすことにより、望ましい行動を増やしたり、問

題となる行動を減らしたりする手法です。行動の原因や動機に遡らず、応用行動分析を使い、行動を行動随伴性で捉えます。

3. ×選択肢は行動変容アプローチの説明です。エンパワメントアプローチは、ソロモンらが提唱しました。個人と社会システムとの間に生まれるパワーの不均衡により、個人の無力感（パワーレス）を生じさせ問題解決を困難にさせているという前提に立ちます。クライアントの本来の力に着目し、クライアントとのパートナーシップを築き、自己肯定感や他者と協働する力を回復させます。

4. ×選択肢は課題中心アプローチの説明です。フェミニストアプローチは、ドミネリやマクリードらが提唱しました。フェミニズムを基に、女性であることで生じる課題を社会的、政治的に位置づけ、女性の社会的抑圧からの解放に焦点を当てます。

5. ×選択肢はナラティブアプローチの説明です。課題中心アプローチは、リードとエプスタインらが提唱しました。クライアントが解決を望む問題を小さく切り分けた「ターゲット問題」に据えて、短期間で具体的な課題に取り組み問題を解決していきます。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus